

統計データから

日本の2024年の平均気温は過去最高 平年を1.48℃上回る

2024年は、全国153の気象台等のうち、夏は80地点(21地点のタイ記録含む)、秋は120地点(4地点のタイ記録含む)で、各季節の平均気温が歴代1位の高温を記録した。気象庁は、2024年の日本の平均気温が、平年値(2020年までの30年間平均)を1.48℃上回り、1898年の統計開始以降で最も高くなったと発表している。

統計開始以降1989年以前には平年値を上回る高温年の出現は全く無く、1985年からの日本の年平均気温の推移を示した表-1をみると、1990年に初めて平年値+0.48℃の高温年を記録している。そして、2015年以降に平年値を超える年の出現が続くようになり、平年値を上回る上位6番目まで年を2019～2024年が連続して占めている。特に、ここ2年について、2023年は+1.0℃を大きく上回る1.29℃を記録し、2024年にはさらにそれを更新する+1.48℃と、より高温となる年が頻出

し、加速しているようにもみえる。

このように、日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら、長期的には100年当たり1.40℃の割合で上昇していると言われている

また、2024年の世界の傾向も同様で、欧州中期予報センター(ECMWF)が運営する「コペルニクス気候変動サービス(C3S)」によると、世界の平均気温は15.10℃で、産業革命前の水準とされる1850～1900年の推定値を1.60℃上回ったと発表している。

2015年のパリ協定の主要目標である1.5℃を超えており、深刻な状況にある。世界気象機関(WMO)は、パリ協定の長期的な気温目標は単年ではなく数十年単位で測られるもので、「パリ協定は、まだ死んではないが、重大な危機にある」と述べている。(K.O)

表-1 日本の平均気温の推移(1985～2024年)

年	偏差※	順位	年	偏差※	順位	年	偏差※	順位	年	偏差※	順位
1985	-0.68		1995	-0.50		2005	-0.32		2015	0.39	11
1986	-1.26		1996	-0.84		2006	-0.10		2016	0.58	7
1987	-0.44		1997	-0.21		2007	0.30	12	2017	-0.05	
1988	-0.95		1998	0.45	10	2008	-0.08		2018	0.38	12
1989	-0.15		1999	0.19	15	2009	0		2019	0.62	4
1990	0.48	8	2000	-0.03		2010	0.30	12	2020	0.65	3
1991	-0.06		2001	-0.35		2011	-0.17		2021	0.61	5
1992	-0.41		2002	-0.01		2012	-0.26		2022	0.60	6
1993	-0.82		2003	-0.36		2013	0.04	16	2023	1.29	2
1994	0.26	14	2004	0.46	9	2014	-0.16		2024	1.48	1

注) ※ 1991年～2020年の30年平均からの偏差